田上市長のホッとトーク

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

今月のテーマ

はあと屋

ベルナード観光通りに「はあと屋」というお店があるのをご存じでしょうか。

はあと屋ができたのは4年前の平成21年。このお店の開設にはいろいろな思いが込められています。障害者支援施設などで障害者の皆さんが作っている製品をもっと知ってもらおう。買ってもらおう。そして売り上げを伸ばすことで、低い賃金を少しずつ上げていこう。障害者の皆さんの働きがいと社会参加の場にしよう。それだけではなくて、ここを障害者のことをもっと知ってもらう発信の場にしよう…。

心のこもった製品が並びます

「はあと屋」という名前は、参加事業所の皆さんからのご指名により私がつけさせてもらうことになりました。ここは物を売ったり買ったりする場だけれど、それを通して心と心が通い合う場になるように、という思いを込めて「はあと屋」という名前にしました。

＊　＊　＊

はあと屋にはいろいろな製品がそろっています。売れ筋のトップは何だと思いますか。野菜です。2位以下にもパン、洋菓子、魚類加工品など食品類が並びます。売上金額でみると縫い製品がトップ。いろいろな製品が並んでいるのです。

最近は、店舗での販売だけでなく、イベントへの出張販売も増えてきました。市役所内での販売もずいぶん定着してきました。

定期的にロビーなどで販売させてくださる企業もあります。「お昼休みにロビーで販売させていただけませんか」という申し出に、「いいですよ」と言ってくれる企業の存在をとても誇りに思います。

多くの皆さんの努力により、はあと屋の売り上げは年々上昇してきました。また参加事業所の皆さんの平均工賃も、平成21年度の1万1千円台から24年度は1万6千円台まで上昇してきました。でも、まだまだ低い水準なので、これからも、はあと屋だけでなく社会全体で知恵を出し努力し続けたいと思います。

＊　＊　＊

「福祉の店だから」ではなくて、「いいものだから」欲しいと言ってもらえるように、製品と販売方法をレベルアップしようと活動しているNPOと最近出会いました。代表の城島薫さんは、障害者の絵を見て、その素晴らしさに可能性を感じ、この活動を始めたそうです。

TSUNAGU FAMILY（つなぐファミリー）というこのNPOは、障害者の人たちの絵などを使って絵葉書やクッションカバーなどの製品を作ったり、既にある製品に、もうひと工夫のアイデアを提供したり…と、メンバーの能力を生かしながら活動しています。11月には市内の商店街や大型商業施設で絵などの作品を展示するイベントも開きました。「協力してくれる店舗や企業があるからこそできたイベントです」と城島さんは言います。

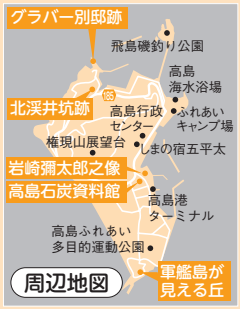
＊　＊　＊

はあと屋は、正式には「チャレンジドショップ　はあと屋」と言います。「チャレンジド」という言葉は、障害を持つ人たちのことを表す言葉ですが、実はわたしたちみんなが、だれもが幸せに暮らせるまちを目指してチャレンジしているのだと思います。

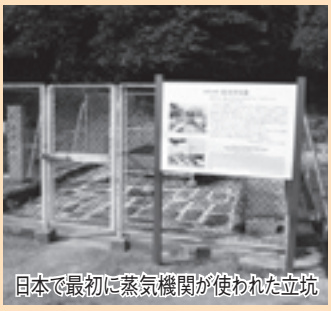
出かけて見る・知るまちのオススメスポット

ながさきプチ旅行

明治日本の産業革命遺産 高島の歴史を訪ねて（前編）



松林の中に立つグラバー


日本で最初に蒸気機関が使われた立坑

出迎えてくれる岩崎彌太郎が指さす先に端島

歴史漂う長崎の街並みを眺めながらクルージングをすること35分。明治日本の産業革命に大きな影響を与えた〝南国の島〟高島に到着する。

まず、港近くの石炭資料館へ。ここには採掘道具のほか、島の繁栄が写された写真が数多く展示され、島の歴史を知ることができる。

ここから自転車で、グラバーが最初に蒸気機関を導入した立坑〝北渓井坑（ほっけいせいこう）跡〟へ。説明版の写真を見ながら見回すと、辺りの地形などはそのままで、今まさに歴史の始まった場所に自分がいることを感じる。

そして、そのすぐ近く、大海原を望む絶景ポイントにグラバーの別邸跡がある。ここでグラバーは何を考えていたのか潮風に吹かれながらタイムスリップしてみるのも面白い。